

はじめに

日本思想史の中で九鬼周造（1888-1941）の哲学は、日本の伝統文化を西洋思想の哲学思想によって洗練させた。その意味で、九鬼は日本独自の思想家として特異な位置を占める。九鬼がヨーロッパにいたのは、1921（大正10）年から1929（昭和4）年までである。パリの哲学界では若い俊才として認められ、とくにハイデッガーには高く評価され、ベルグソンにも認められた。また当時はサルトルとも交流があった。

本学には九鬼文庫があり、それは国内外から、資料評価が高いものとされる。しかしながら、旧2号館から図書館倉庫の移転後、阪神大震災により、文庫が散逸するとともに破損もしている。その後、図書館に九鬼文庫の一室が設置され、現在は文庫の整理と復旧が進みつつあるが、こうした原資料をCD-ROMなどによってアーカイブ化するとともに、その研究成果を公表することが目指されている。

「押し花」標本および旧九鬼邸の貴重な写真の公表は、これらの成果の一端である。

研究会幹事 谷口文章